

# 危険から守る!! やっぱり大事な漏電しゃ断器

北陸電気保安協会 福井支店 保安課 稲葉 拓紀

ある土曜日の昼過ぎ、お客さまから、「サーバー室内の水配管から水漏れが発生し、停電している。復旧対応をして欲しい。」との要請をうけ、すぐさま故障出動しました。

現地に到着すると、お客さまは、腕まくりでサンダルや長靴といった服装で慌ただしく行き来している様子が目に飛び込んできました。どうやら大変なことになっていそうだなと、不安を感じながら復旧作業を行うため、サーバー室に向かうと、床上3 cm ほど水が溜まっている状態がみられ、必死に排水作業をしておられました。まず、私は電源状態を確認することにしました。当該箇所には電源専用の分電盤が設けられており、主開閉器の「漏電しゃ断器」が水漏れによる漏電を検出し動作していました。

サーバー室には、大量の情報通信機器とともに各機器の電源ケーブルや通信ケーブルが縦横無尽に張り巡らされている状態です。排水作業を行うのも容易ではありませんでしたが、居合わせた職員の方々に加え、私も含めた関係会社の皆さんも必死に作業を続けたところ、2時間程で水の排出を完了することが出来ました。

とりあえず、床上の水はなくなったとはいえ、まだ室内のいたるところに漏水の影響が残っている状態がみられ、床のテーブルタップの差込部分等、電源系統にも水気が残り、このまま電気を送ると漏電する恐れがありました。そこで、電気設備を乾燥させるため、別の箇所から延長コードで電源を引っ張り、扇風機を数台持ち込むとともに、エアコンも除湿運転させ、室内の湿気をとることにしました。その間、機器やケーブルについては、ウエスで水分をふき取り電気機器の乾燥に努めました。

更に1時間程経過した頃、乾燥具合も十分だと判断し、絶縁抵抗測定を行い、安全を確認したのち、漏電しゃ断器の投入を試みたところ、電源を復旧することができました。結果、今回の漏水による対応は4時間もの長きにわたる故障出動となりました。

ところで、今回のように浸水が発生した場合、腕まくりやサンダルなどといった服装で、電気に対する安全対策を行わないで復旧作業を行うと、漏電により感電し、又、救助に入った人も二次災害を受ける場合もあります。今回は、漏電しゃ断器が設置されていたことから、大地に対する漏電を迅速に検出・遮断でき、深刻な事故には至らず済んだものと思われま。改めて漏電しゃ断器の必要性と、未取付けの場合は必ず取り付けてもらえるように、今後のお客さまへのPR活動の大切さについて、痛感した事故対応でした。

【漏電しゃ断器】

